

## 預貸率の決定要因と地域経済への影響 —ダイナミック・パネル推定によるアプローチ—

日本政策投資銀行・埼玉大学大学院生 寺崎 友芳

本報告では、都道府県別の預貸率の決定要因と預貸率が地域の実体経済と金融機関の競争環境に与える影響について分析した。サンプルは、1998年度から2007年度の47都道府県のパネルデータで、動学的な効果进行处理するダイナミック・パネル法により推定した。推定に際しては、Arellano and Bond(1991)によるGMM推定を採用し、以下の結論を得た。

①預貸率は1人あたり実質県内総生産とデフレーター増加(減少)により上昇(低下)する。一方、金融機関の競争環境指標については、銀行店舗数は有意であったが、大手銀行等貸出金シェア、貸出金残高のハーフィンダール・ハーシュマン指数は有意ではなく、競争環境の緩和が必ずしも預貸率の低下を招くわけではないことが示唆された。

②1人あたり実質県内総生産を被説明変数とする推定では、予想に反して預貸率は有意に負となっており、預貸率の低下が実体経済にマイナスの影響を与えるという結果にはならなかった。このやや意外な結果の解釈としては、預貸率の低下が預金の増加に起因する場合は資産効果を通じて実体経済にプラスの影響を与えること、預貸率の低下が貸出の減少に起因する場合は、効率性の低い産業への貸出を減少させることで地域内の資源配分を是正し、地域経済の効率性を改善させている可能性があることなどが考えられるが、この点に関しては更なる精緻な分析が必要である。

③一方、競争環境指標を被説明変数とするダイナミック・パネル推定では、預貸率は全てのモデルで有意であり、預貸率の低下により、金融再編や大手行の撤退が進展し、地域における金融機関の競争環境が緩和することが示唆された。

以上